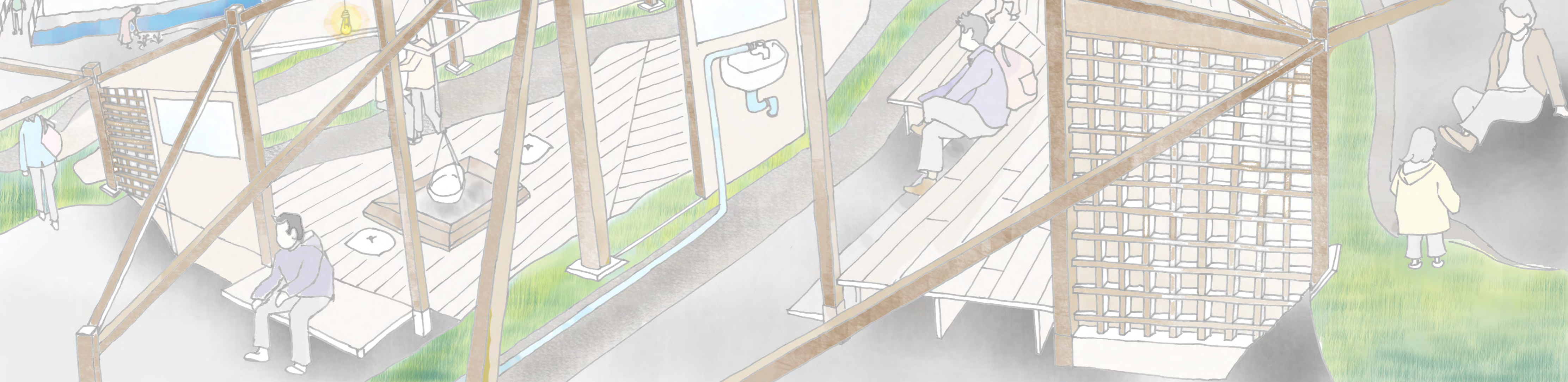


循環集落 - 担い手と土地の転遷をつなぐ -

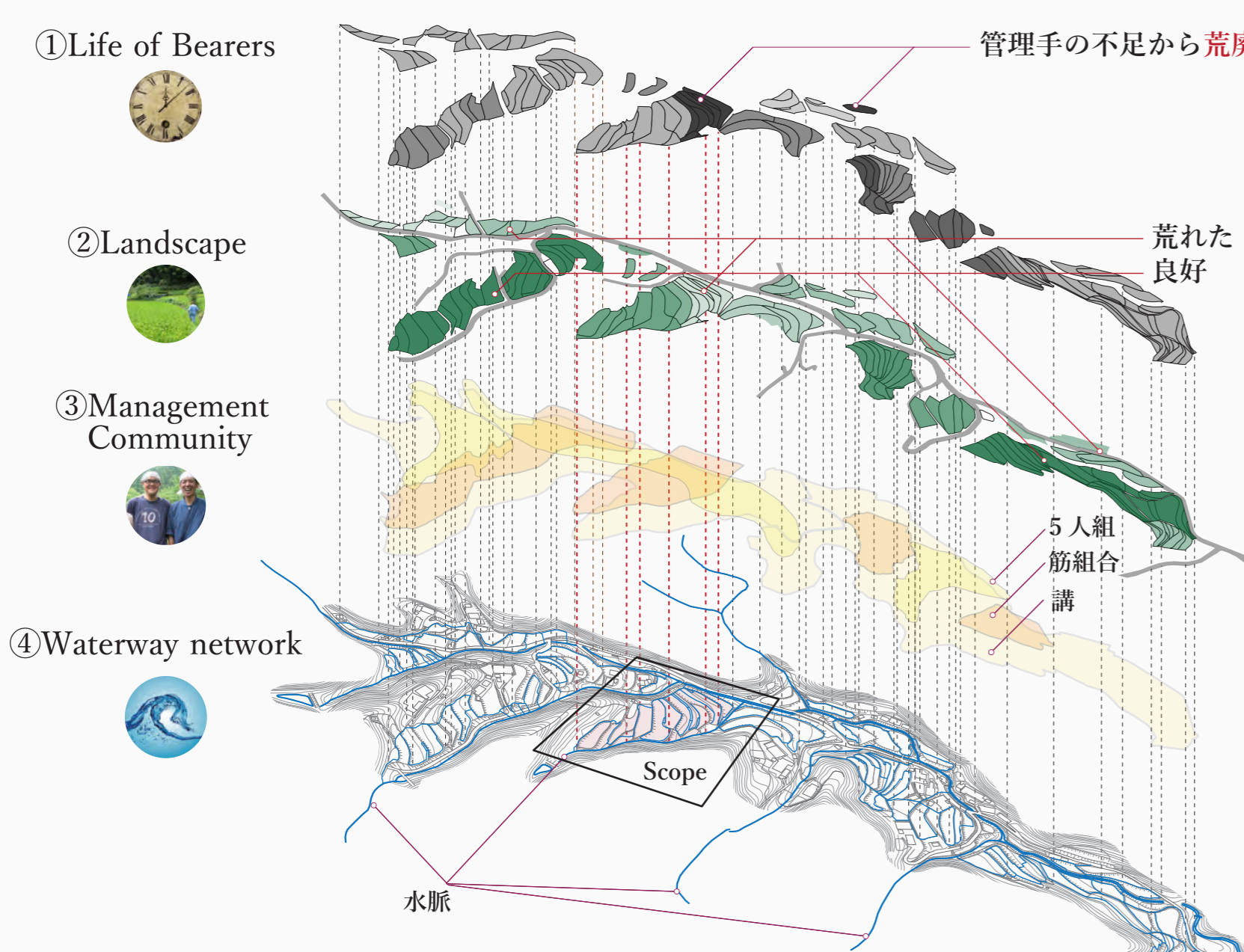
集落はかつての人口規模から急激に縮小し、集落の生活地の規模とのギャップから耕作放棄地や森林の無秩序な拡大による弊害が生まれている。さらに集落血縁のみでの維持は困難となっていることから、多様な人が関わりながら維持管理していくような他縁への転遷が必要であると考えられる。

これらから本計画では土地と担い手の二つの循環を生み出す心臓を構築する。

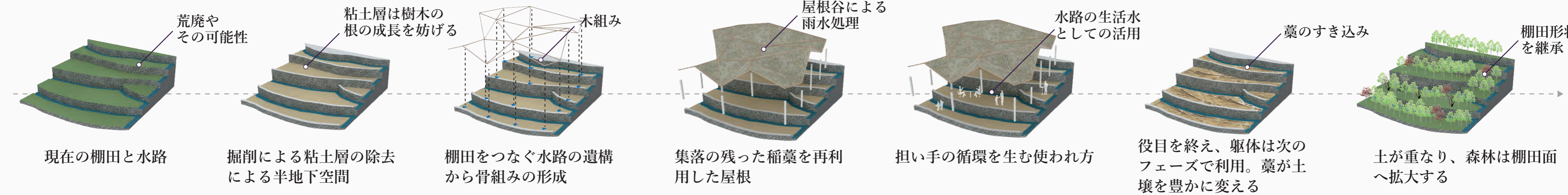


土地の循環 - 人のものから自然へ -

- ①担い手の寿命、②文化的景観の現状、③集落インフラの維持コミュニティ、④水路ネットワークをたよりに持続可能な適正規模へと縮小化するための場所

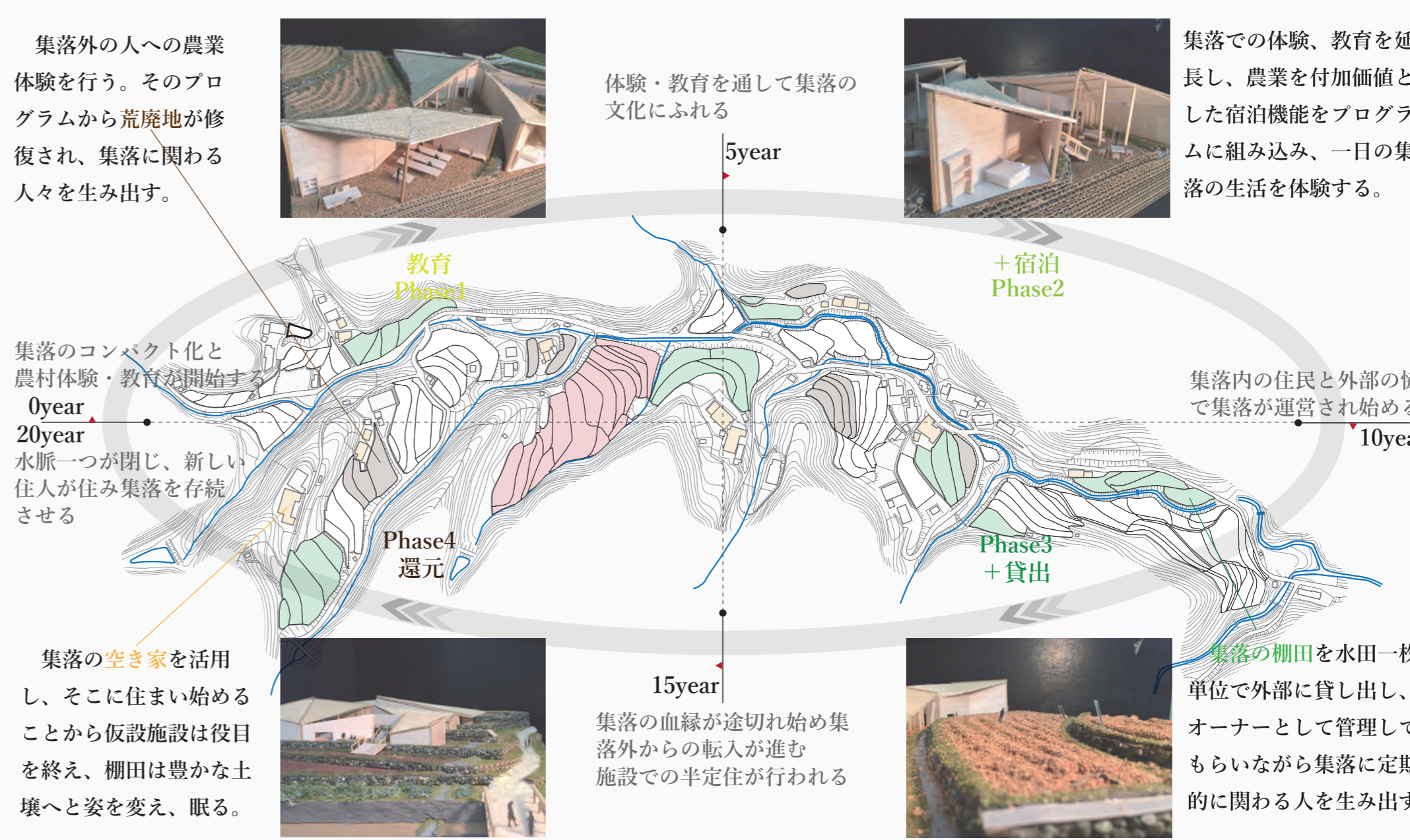


循環のダイアグラム



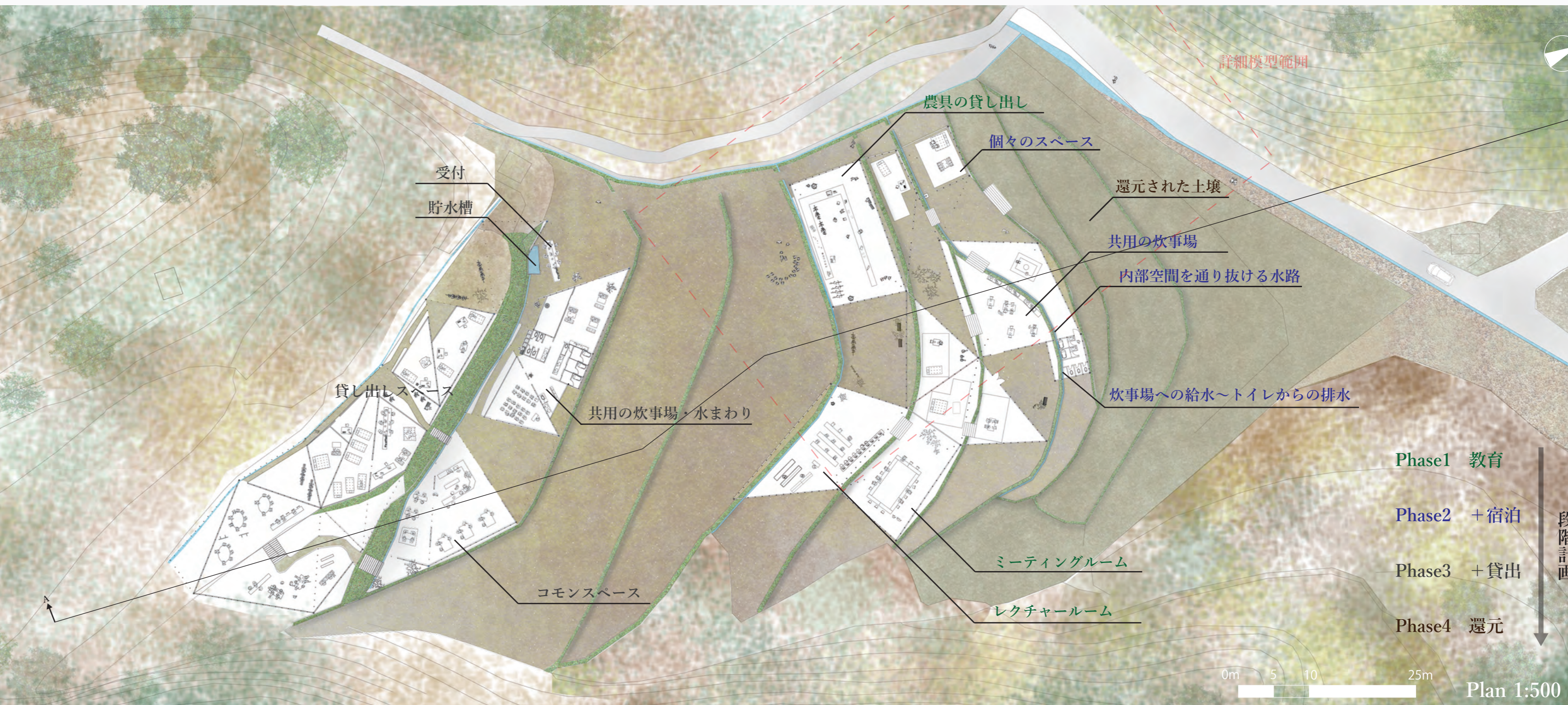
担い手の循環 - 地縁から他縁へ -

河内長野市流谷集落の生業を継ぐ住民は60歳から~90歳を超え、およそ20年後には消滅の可能性を孕む。20年のスパンで集落血縁から外部の担い手へ移行する。



管理手の年齢と棚田
棚田を景観の状態から取捨選択
複雑に繋がった集落インフラ維持コミュニティ
水の繋がりは住人の繋がりで。水脈単位でのコンパクト化

集落外の人への農業体験を行う。そのプログラムから荒廃地が修復され、集落に関わる人々を生み出す。
体験・教育を通して集落の文化にふれる
5year
+宿泊 Phase2
集落での体験、教育を延長し、農業を付加価値とした宿泊機能をプログラムに組み込み、一日の集落の生活を体験する。
集落のコンパクト化と農村体験・教育を開始する
0year
20year
水脈一つが閉じ、新しい住人が住み集落を存続させる
集落の空き家を活用し、そこに住まい始めることから仮設施設は役目を終え、棚田は豊かな土壌へと姿を変え、眠る。
15year
集落の血縁が途切れ始め集落外からの転入が進む施設での半定住が行われる
集落内の住民と外部の協働で集落が運営され始める
10year
集落の棚田を水田一枚単位で外部に貸し出し、オーナーとして管理してもらいながら集落に定期的に関わる人々を生み出す。



Phase1 教育
Phase2 + 宿泊
Phase3 + 貸出
Phase4 還元
段階計画
Plan 1:500

